

戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/hokudai04a/>

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間： 5/20(木) 13時～15時)

I. 諸連絡

1. 5月21日(金)は自由討論

- ・ ノーム・チョムスキー著, 鈴木主税訳『メディア・コントロール — 正義なき民主主義と国際社会』集英社新書(190), 2003.
報告者 2 × 3 = 6 名、コメンテーター 6 名
報告形式は自由 (レジュメや黒板の使用も可)、席の配置

2. 次々回の指定文献として (6月18日頃)

- ・ マイケル・イグナティエフ, 中山俊宏訳『軽い帝国 — ボスニア、コソボ、アフガニスタンにおける国家建設』風行社, 2003, 1900 円.
第三の道? — リベラル・デモクラティック・インターナショナルリストの議論

3. これからの予定について — 授業計画の補足

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 1. アメリカの立場 (アフガニスタンとイラク情勢を含む) ~5/14 | 2. 戦争とメディア 5/21~ |
| 3. ユーゴ紛争について検証 (メディアの問題を含む) 6月前半 | 4. 日本はどうすべきか 6月後半 |
| 5. イスラエルとパレスチナ 7月前半 | 6. ナショナリズムとイスラーム主義 7月後半 |

4. トドロフの著書についての補足 — 逆ユートピア (ディストピア)

- ・ ジョージ・オーウェル, 新庄哲夫訳『1984年』ハヤカワ文庫, 1987. (原書 1948 年)
- ・ E. I. ザミャーチン, 川端香男里訳『われら』岩波文庫, 1992. (原書 1921 年)
- ・ A. ハックスリー, 村松達雄訳『すばらしい新世界』講談社文庫, 1974. (原書 1932 年)

II. ケーガン『ネオコンの論理』に対する反論

1. ホッブズ的世界とカント的世界

自然状態的無秩序を生み出したのはアメリカ自身ではないか?

ビンラーディンとフセイン — 自らが生み出した怪物

アフガニスタン

- a. ソ連のアフガン侵攻 1979.12.25
- b. 80年代におけるムジャヒディン・ゲリラへの支援
- c. 湾岸危機(1990)におけるビンラーディンの怒り
- d. 中央アジアにおける石油と天然ガス

イラク

- a. フセインの大統領就任 1979
- b. イラン革命、ソ連、アメリカ
- c. イラン・イラク戦争 1980-1988
- d. 湾岸危機 —— シーア派暴動(1991)をアメリカは黙殺

2. 「世界の保安官」という役割とアメリカの国益

大量破壊兵器と民主化という理由付け
石油利権という国益、それとも個人的な利益のため？

3. アメリカ外交は首尾一貫しているか？

単独行動主義と孤立主義の間
冷戦後におけるウィルソン外交再評価の流れ —— 「国際主義」？

4. アメリカとヨーロッパの間

どちらが「理想主義者」でどちらが「現実主義者」なのか？
カントの天使的でない主張（トドロフ, pp.68-69）
「諸国家の共存の方を、他の国家を凌ぐ大国のもとで結合することよりも」、
「多様性から帰結する闘争にもかかわらず」諸国家間に確立する均衡の方を、
帝国によって押しつけられる決定的な平和よりも好む

III. トドロフ『イラク戦争と明日の世界』に対する反論

1. ヨーロッパ・アイデンティティは実在するか？

ヨーロッパはギリシアから始まる？ —— ギリシア神話の女神エウロパ
『黒いアテネ Black Athena』(1987) の衝撃
『ヨーロッパの歴史』(仏語版 1992) —— 新たな「国民国家」の構築？

2. ヨーロッパ・ナショナリズム(?)の危険性

ヨーロッパ的多元性に潜む排他性
フランスのマグレブ人、ドイツのトルコ人
辺境であるが故のナショナリズム
ブルガリア出身のトドロフ、チェコ出身のミン・クンテラ「誘拐された西欧」(1983年)

3. 「静かなる大国」に必要な軍事力とは？

RMA (軍事革命) 以降の軍事力
アメリカとアメリカ以外のギャップは埋められない？

IV. 推薦文献 —— 新刊書など

- ・阿部重夫『イラク建国 — 「不可能な国家」の原点』中公新書(1744), 2004年4月.
- ・ジョゼップ・フォンターナ著, 立石博高, 花方寿行訳 『鏡のなかのヨーロッパ — 歪められた過去』 平凡社, 2000年.